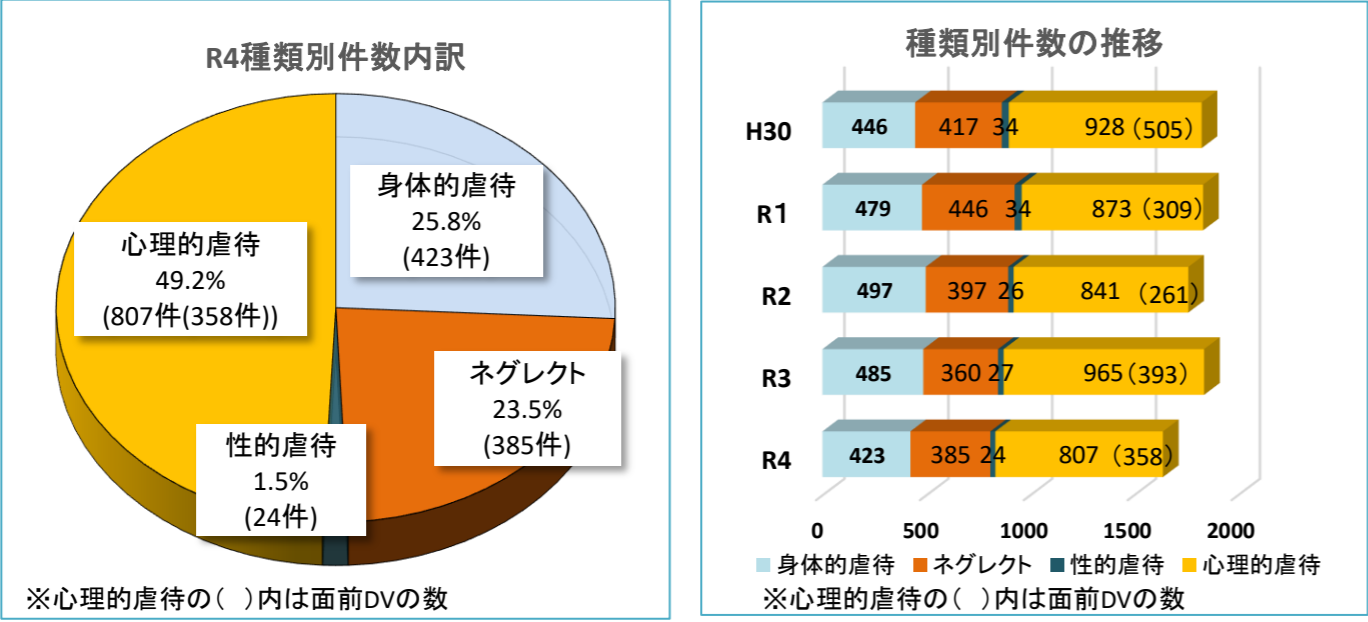
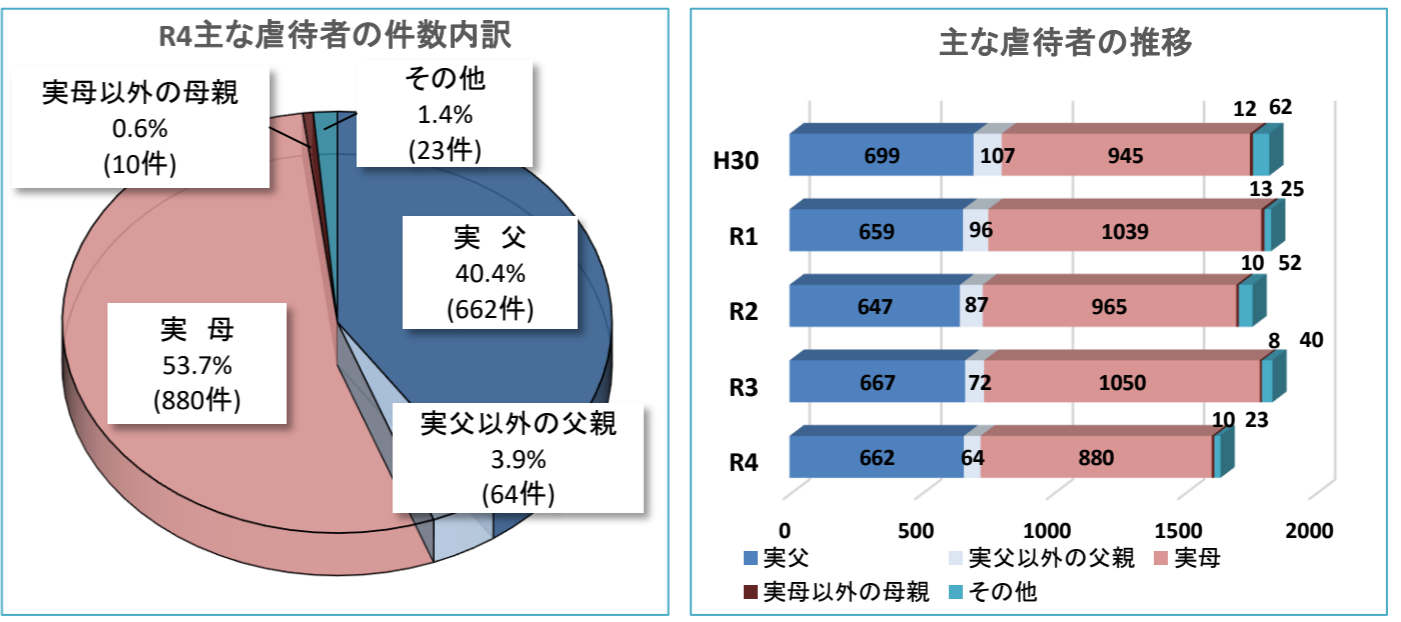


主たる虐待の種類



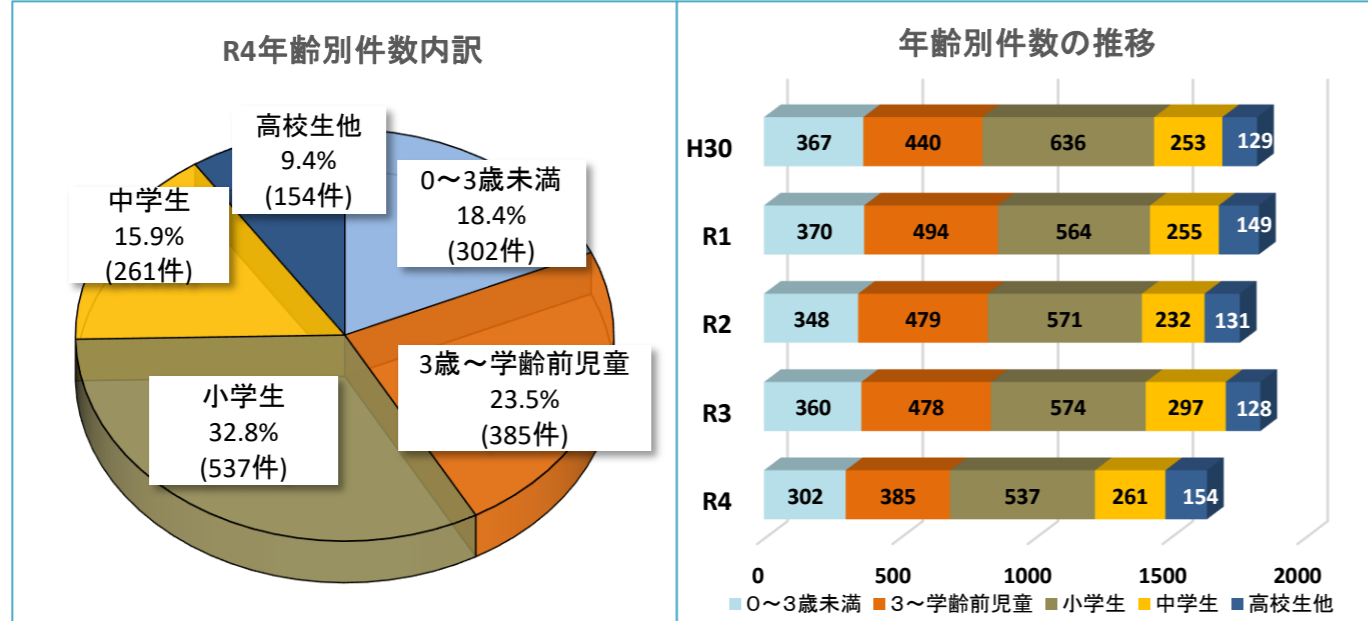
「心理的虐待」の件数が最も多く、次いで「身体的虐待」「ネグレクト」の順に多い。前年度と比較すると、ネグレクトの件数が増加し(25件増・6.9%増)、心理的虐待(158件減・16.4%減)、身体的虐待(62件減・12.8%減)の件数が減少している。心理的虐待の件数が全体の約半数を占めており、前年度と同様の傾向である。

主な虐待者



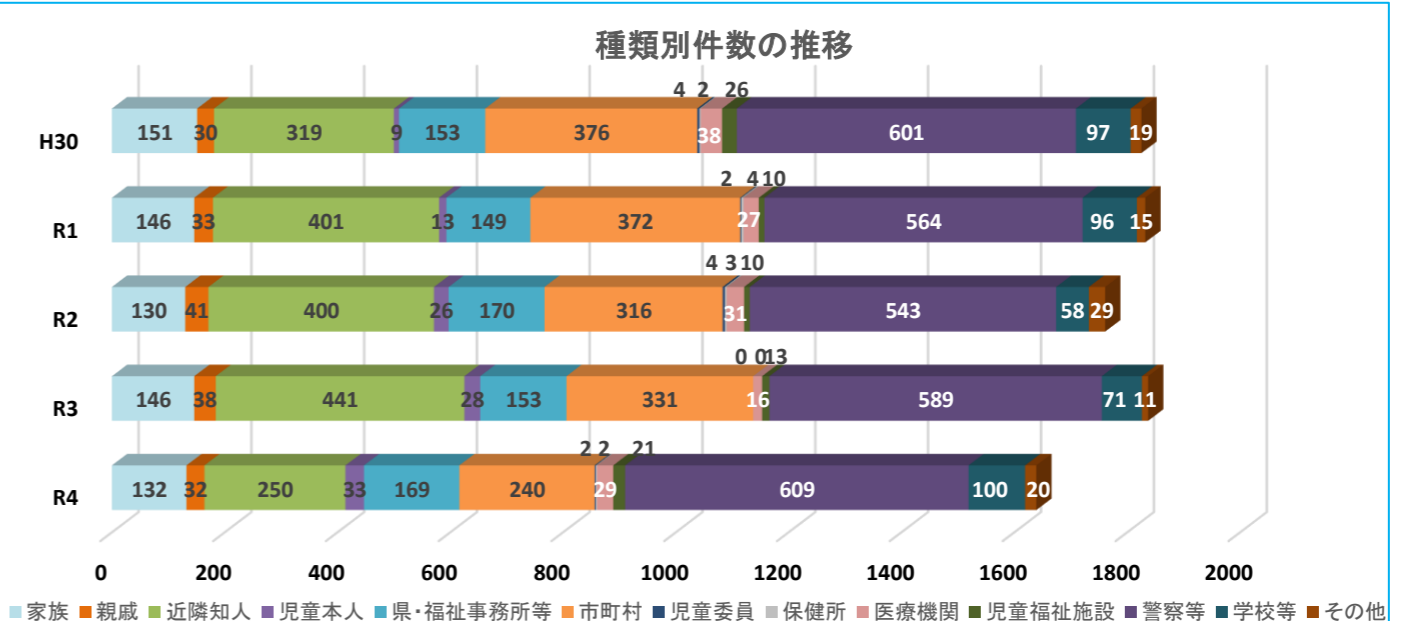
「実母」の件数が全体の半数以上を占め、「実父」と合わせた「実親」の件数が、全体の9割以上を占めている。前年度と比較して「実母」の件数が減少(170件減・16.2%減)したが、「実父」「実父以外の父親」「実母以外の母親」の件数に大きな変化はない。虐待者別の割合の傾向についても、「実母」の割合は減ったが、前年度とほぼ同様である。

被虐待児の年齢



前年度と比較すると、「高校生 他」が増加(26件増・20.3%増)し、「0～3歳未満」(58件減・16.1%減)、「3歳～学齢前児童」(93件減・19.5%減)、「小学生」(37件減・6.4%減)、「中学生」(36件減・12.1%減)の年齢別件数は減少した。年齢別の割合の傾向については、前年度とほぼ同様である。

虐待通告の経路



関係機関からの通告では「警察等」「近隣知人」「市町村」の順に件数が多い結果となっている。前年度と比較すると、「警察等」で件数が増加(20件増・3.4%増)したが、「近隣知人」(191件減・43.3%減)、「市町村」(91件減・27.5%減)でとくに減少が見られた。